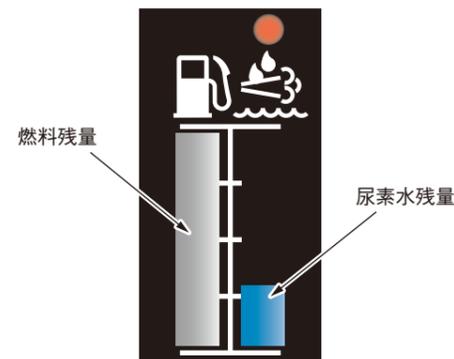


# 取り扱いのポイント

※詳細は取扱説明書をお読みください。

## 尿素SCR（選択式還元触媒）システムの取扱い

- ・このエンジンは、排ガス4次規制（NOx低減）に対応するために尿素水（AdBlue®/アドブルー®）が必要です。
- ・尿素水が不足するとエンジンの出力に制限がかかるので、残量に注意してください。
- ・尿素水は「AdBlue®」または「アドブルー®」の表示があるものを使用してください。指定以外の尿素水を使用するとエンジンの不調や故障につながります。



### ■ 尿素水残量について

尿素水の残量が少なくなると、「●」マークが点灯し、「」が点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。尿素水を補給してください。つぎに、残量警報が表示されます。警報の種類によってエンジンの回転数や出力が制限されます。警報画面になったら、すみやかに尿素水を補給してください。



尿素水が少なくなっています。すみやかに尿素水を補給してください。エンジンの出力が制限されています。



尿素水がなくなりました。エンジンを停止して尿素水を補給してください。エンジンの出力と回転数が制限されています。

### 重要

- 万一、尿素水が目に入った場合は、直ちに大量の水で15分以上目を洗ってください。また、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- キースイッチ「オフ」後は尿素水の吸い戻しを行っています。キースイッチのオフ後10分間はバッテリーからハーネスを外さないでください。（キースイッチ「オフ」でも作動しています。）
- 尿素水を補給するときは、ゴミなどが入らないように注意してください。軍手など、繊維が混入してしまうおそれのあるものは使用しないでください。
- 本機を保管するときは尿素水をすべて抜き取り、使用前に新しい尿素水を満量になるまで補給してください。

### 尿素水（AdBlue®）について

- ・尿素水をこぼした場合は、すみやかにふき取って必要に応じて水で洗い流してください。白い結晶ができて、異臭の原因となります。
- ・尿素水が腐食しやすい箇所（鉄・銅・アルミなど）にかかった場合は、尿素水を布でふき取ったあと、水で洗浄し尿素水を洗い流してください。
- ・尿素水は保管温度により寿命が異なります。保管の際は、できるだけ低温状態で保管してください。
- ・尿素水は凍結しやすく、-11℃で凍結します。
- ・地面へのたれ流しや川などへの廃棄はしないでください。尿素水を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- ・尿素水タンクに尿素水以外の液体が混入した場合にはタンクを空にして蒸留水ですすぎ、十分に液体を取り除いたあと、再度尿素水を補給してください。承認外の液体がタンクに入った状態でエンジンを始動した場合は、システムの交換が必要になる場合があります。
- ・尿素水には危険物・毒劇物の指定はありません。

※ AdBlue®はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

保管温度	予想される尿素水の寿命
≤ 10℃	36カ月
10℃ < T ≤ 25℃	18カ月
25℃ < T ≤ 30℃	12カ月
30℃ < T ≤ 35℃	6カ月
35℃ < T ≤ 40℃	4カ月
40℃ < T ≤ 50℃	1カ月
50℃ < T ≤ 60℃	1週間

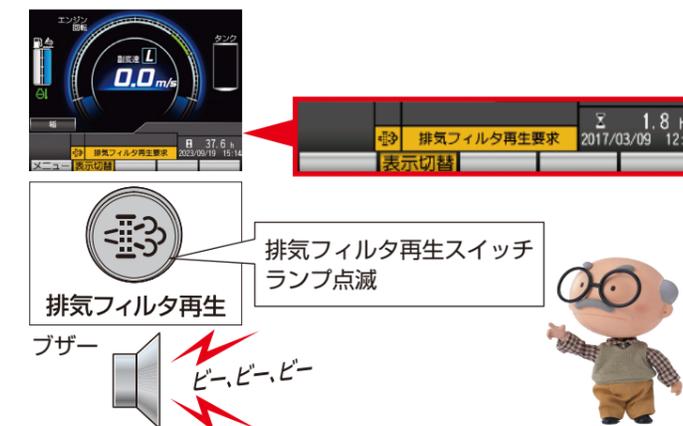
## 排気フィルタ(DPF：ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ)の再生手順

※初回約50時間、以後100時間ごとに3つのお知らせ機能で、再生要求を出すシステムになっています。

### 3つのお知らせ機能



- メータ表示に黄色の『排気フィルタ再生要求』が表示されます。
- 排気フィルタ再生スイッチのお知らせランプが点滅します。
- お知らせブザーが鳴ります。



走行を停止し、排気フィルタ再生スイッチを、3秒以上長押ししてください。（ランプ点灯、ブザー鳴り止む）

### 排気フィルタ(DPF)の再生開始

排気フィルタ再生スイッチ（ランプ付）



### 参考

- 再生中も作業は可能です。
- 再生は約30分で終了しますが、再生終了までの時間は外気温によって異なります。（再生が終了したらランプ消灯）
- 以下の条件では再生は開始されません。
  - ① エンジン冷却水温が低いとき
  - ② 排気フィルタ内の温度が低いとき
- リセット再生を行うときは、アイドルで停止していると条件が満たされないときがあります。できるだけ、作業中または走行中に再生してください。（停止中でも、エンジンを定格回転まで上げると、再生しやすくなります。）

### 重要

- 赤い警告表示の「排気フィルタ再生要求1」「排気フィルタ再生要求2」の場合は、作業を中断してください。詳細は取扱説明書をお読みください。
- エンジンオイルは、必ずヤンマー純正DH-2オイルを使用してください。指定以外のオイルを使用すると、排気フィルタが目詰まりして故障の原因になります。
- エンジンオイルや燃料に市販の添加剤を使用しないでください。エンジンの不調や故障の原因となる場合があります。
- 燃料はできるだけ新しいものを使用してください。燃料を長期保管する場合はステンレス製か樹脂製のタンクで保管してください。鉄板製亜鉛メッキのタンクでは亜鉛成分が燃料に溶け出し、エンジンの不調につながります。

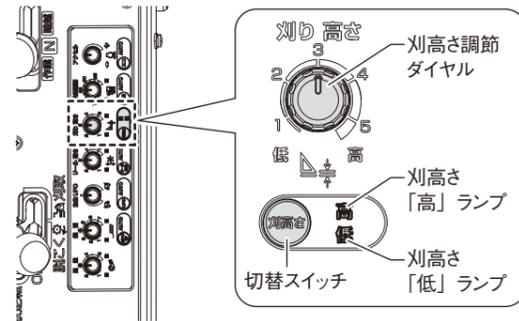


## 刈高さ自動制御のポイント

刈高さ自動制御装置とは、希望の刈高さをセットすると、刈取部のセンサー、およびフィーダハウス回転支点のセンサによって、刈取部の高さを検知し、ほ場の条件が変化しても希望の刈高さに自動調節する装置です。

### ■ 操作手順

1. センサ切替レバーを「自動」位置にします。
2. エンジンを始動します。
3. 作業クラッチレバーを「刈取」位置にします。
4. 刈高さ自動切替スイッチ（高）または（低）スイッチを押し、ランプを点灯します。
5. 刈高さ調節ダイヤルを回して、希望の刈高さに設定します。

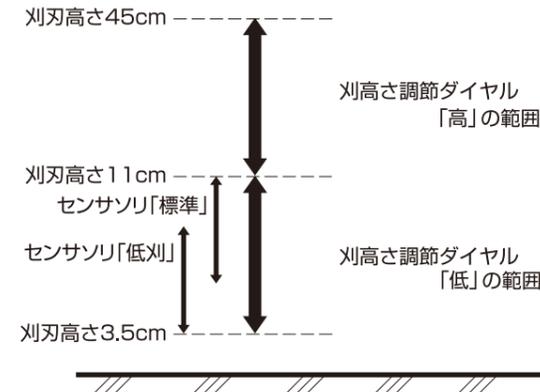
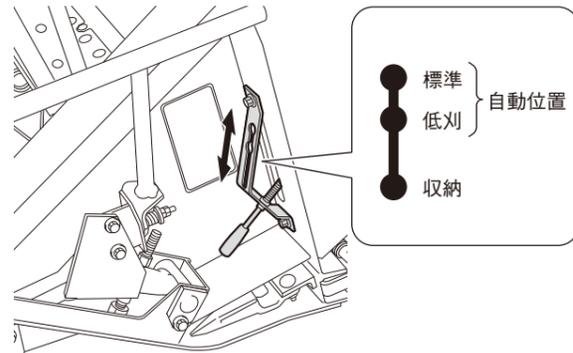


### ■ 低刈モード

刈取部のセンサーが、地面に接地する高さで作業を行うときに使用します。刈刃高さは、地面から3.5～11cmの範囲です。

### ■ 高刈りモード

刈取部のセンサーが、地面に接地しない高さで作業を行うときに使用します。刈刃高さは、地面から11～45cmの範囲です。



### ■ 参考

- 刈高さ自動切替スイッチランプが点灯の状態、自動制御が働かない場合は、オートセットボタンを押すか、刈取昇降スイッチで、刈取部のセンサーが接地するまで刈取部を下げてください。
- 刈高さ自動制御中に刈取昇降スイッチを操作すると、手動優先が働き、刈取部の昇降が行えます。
- 低刈モードのとき、制御中に刈取部のセンサーが地上から離れると、自動制御は中断されますが、30cm走行後に自動復帰します。
- 手動操作で刈取部のセンサーが地上から離れると、センサーが地面に接地するまで自動復帰しません。自動に戻す場合は、オートセットボタンを押すか、刈取昇降スイッチで、センサーが接地するまで、刈取部を下げてください。
- 高刈モードのときに、刈取部のセンサーが強く地面に押し付けられると、突っ込み防止が働き刈取部は自動的に上昇します。
- 高刈モードで頻繁に突っ込み防止が作動する場合は、刈高さ調節ダイヤルの調節を高く調節するか、低刈モードで作業してください。

### ■ 移動走行・トラック積み下ろし時の注意点

刈取部が不意に上下することがありますので、必ず下記条件にて運転してください。

- 作業クラッチ「切」
- 刈高さ自動切替スイッチ（高）（低）「切」
- センサ切替レバー「収納」

## カラーディスプレイの機能設定

### ■ 機能設定モード例

「メニュー」スイッチを押し、「コンバイン設定」を押すと下記の設定ができます。

#### コンバイン設定

- ・ 旋回モード設定：旋回モードごとに旋回力の設定ができます。
- ・ 最大車速設定：最大車速の50%～100%の間で最高速度を設定できます。
- ・ 積算時間：アワーメータに表示する項目を選択できます。積算時間を「エンジン」または「作業時間」（刈取クラッチ入状態）に設定できます。また、「作業時間」のリセットができます。「エンジン」のリセットはできません。
- ・ オイル交換時間リセット:「エンジンオイル」や「ミッションオイル」の交換時間リセットができます。

#### 基本設定

- ・ 明るさ設定・日付・時間設定



## 刈取逆転装置のポイント

刈取作業中に、プラットフォームオーガ、またはフィーダハウス内で詰まりが発生した場合、刈取部の昇降を利用して、フィーダチェンやプラットフォームオーガを逆転させ、詰まりの除去を行う装置です。

### ■ 操作要領

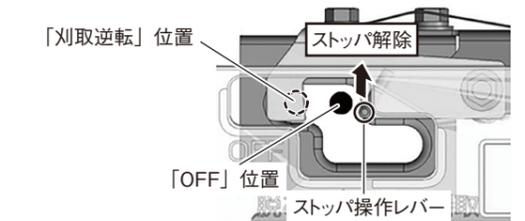
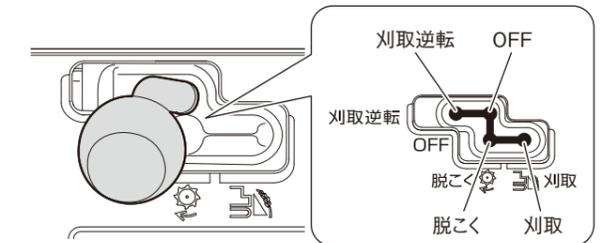
1. 駐車ブレーキをかけます。
2. 刈取部が確実に止まっているのを確認してから、作業クラッチレバーを「刈取逆転」位置にします。このとき、ストップ操作レバーを「ストップ解除」位置にしないと「刈取逆転」位置に入りません。
3. 刈取部を昇降します。1回の昇降でプラットフォームオーガが約20°逆転します。
4. 刈取部の昇降を数回繰り返します。
5. 作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてからリールを上昇させてエンジンを停止し、刈取部に詰まっている作物を取り除きます。
6. 作物が取り除けないときは、刈取部の昇降を繰り返してください。

### ■ 参考

エンジン回転を上げると、刈取昇降速度が速くなります。

### ■ 重要

- 詰まっている作物を手で取り除くときは、必ずエンジンを停止してください。
- 刈取部逆転作業途中でエンジンスイッチを「OFF」位置にすると作業クラッチレバーが「OFF」位置に戻らない場合があります。作業クラッチレバーが「OFF」位置にないとエンジンが始動できません。エンジンを始動するには、リールを上昇させて刈取昇降・リール昇降ストップバルブをロック位置にし、刈取プラットフォームオーガを手動で逆転させます。作業クラッチレバーを「OFF」位置にするとエンジンを始動することができます。



## 無線リモコンオーガ操作時のポイント

- 無線リモコンオーガで操作するときは、わき見をしないで常に周囲の安全に注意を払ってください。
- 排出オーガクラッチを「入」にするときは、0.2秒以上押ししてください。排出オーガクラッチの「切」は、すぐにクラッチが切れて、排出はすぐ止まります。
- 電源投入時は、「ONスイッチ」を2秒以上押ししてください。
- スイッチは、5分間操作しないと、自動的に電源が切れます。（赤ランプ消灯）

